

3. 調査の改善に関する検討事項

今回、試行的に共通調査項目を用いて調査や分析を実施した過程で得た知見から、各地方公共団体にて調査を実施する場合は、機微な質問に配慮した運用を求める事に加え、下表に示すとおり修正を行うことを提案する。

表 3-1 主な修正趣旨、修正概要

主な修正趣旨	修正概要
基本情報の取得	<ul style="list-style-type: none"> ・家族構成に関する質問の追加【保護者票 新規】 ・単身赴任者の有無に関する質問の追加【保護者票 新規】 ・保護者の年齢に関する質問の追加【保護者票 新規】
子供と同様の調査項目の追加	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者のウェルビーイングに関する質問の追加【保護者票 新規】
回答者から、より正確な情報を得るための修正	<ul style="list-style-type: none"> ・学歴や進学希望等に関する質問の修正【保護者票問7,14、中学生票問7】 ・「収入」と「所得」の語句の整理【保護者票問 18】 ・公共料金の支払いに関する選択肢の追加【保護者票問 21】 ・逆境体験に関する質問の精緻化【中学生票問 17】 ・支援制度・居場所に関する質問における具体例の追記【中学生票問 18】

3.1.調査実施方法の検討

(1) 機微な情報に配慮した運用

本調査には、逆境体験など繊細な質問を含んでおり、子供が回答の際にトラウマ体験をフラッシュバックする可能性も想定される。本調査において使用した共通調査項目には、辛い状況にある子供が助けを求めするための相談先として、チャイルドラインの電話番号を掲載したところであるが、各地方公共団体において実施する場合は、地域の子供が相談できる窓口のリスト(対面・電話・SNS等を含む)の一覧を添付するなどの方策を検討すべきである。

3.2.保護者票の修正

(1) 世帯の人数

- 保護者票問2で「ご家族の人数」を尋ねているが、子育てに関する負担等の違いを把握することを目的として、「子供(お子さんを含む兄弟姉妹)の人数」も情報として把握できるようにする。
- また、保護者票問2では、「単身赴任中の方は含めない」としていたが、家族の人数に含むようにし、別途、単身赴任中の者がいるか否かを把握できるようにする。このほか、ひとり暮らしをしている大学生等の子どもがいる場合には、同居はしていないものの同一の家計において費用負担を行っていることが多いと考えられることから、このような者も家族の人数に含めてカウントしていただくようにする⁶⁹。

(改善案)

問 お子さんと同居し、生計を同一にしているご家族の人数（あなたやお子さんを含む。）を教えてください。単身赴任中の方や学業のために世帯を離れているお子さんがいる場合には、ご家族の人数に含めてお考えください。また、お子さんの兄弟姉妹の人数を教えてください。

ご家族の人数

	人
--	---

お子さんの兄弟姉妹の人数（いらっしゃらない場合は「0」をご記入ください。）

兄	姉	対象の お子さん(本人)	弟	妹	合計
		1			
人	人	人	人	人	人

問 あなたのご家族のうち、現在単身赴任中の方はいらっしゃいますか。

(あてはまるもの1つに○)

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1 お子さんの父親が単身赴任中 | 2 お子さんの母親が単身赴任中 |
| 3 その他 () | 4 単身赴任中の者はいない |

⁶⁹ 例えば厚生労働省「国民生活基礎調査」では、「単身赴任や学業で世帯を離れている人、老人福祉施設などの社会福祉施設に入所している人」などは「ふだん一緒にお住まいで、生計を共にしている方(世帯員)」には含めないと定義されている。他方で、「旅行や出張などで一時的(3か月以内)に自宅を離れている人や船員など就業場所を移動する人」は世帯員に含めるとしている。子育て世帯において、父母のいずれかが単身赴任をしているという場合や、学業で世帯を離れている子供がいる場合においては、住んでいる場所は異なっても「生計を共にしている」という条件には該当することが多いと考えられることから、単身赴任の者や学業で世帯を離れている子供も含めて家族の人数を把握できるようにする。ただし、子供との関わり方や子育ての負担感等に着目する場合には、父母のいずれかが単身赴任である場合に差異がみられる可能性もあることから、単身赴任者がいるか否かの情報は別途把握できるようにする。

(2) 学歴

- 保護者票問 7 で「母親・父親の最終学歴(卒業した学校)」を尋ねている。この設問について、「専門学校」が「短大」や「高専」と同分類となっていることなどを解消するため、主に想定される進路の組み合わせを提示し、その中から回答いただくようにする。また、「その他」の選択肢を設け、「いない」と「わからない」は区別する。このほか、母親・父親以外の保護者の方がいることも想定されることから、「母親・父親以外の保護者」の回答欄を設け、該当する方がいらっしゃる場合には回答いただけるようにする。
- 同様に、保護者票問 14 では「お子さんがどの段階まで進学すると思うか」を尋ねているが、この設問も、同様の選択肢から選択してもらおう設問に変更する⁷⁰。

(改善案)

問 お子さんの保護者の方が卒業・修了した学校をお答えください。母親・父親にかわる保護者の方がいる場合には、その方のことについてお答えください。

(a,b,c それぞれについて、あてはまるものひとつに○)

(それぞれいっしょらない場合には「いない」に○をつけてください)

	a) 母親	b) 父親	c) 母親・ 父親にかわる 保護者
中学のみ(義務教育のみ)	1	1	1
中学、高校	2	2	2
中学、高校、専門学校	3	3	3
中学、5年制の高等専門学校	4	4	4
中学、高校、短大	5	5	5
中学、高校(または5年制の高等専門学校)、大学	6	6	6
中学、高校(または5年制の高等専門学校)、大学、大学院	7	7	7
その他	8	8	8
わからない	9	9	9
いない	10	10	10

⁷⁰ なお、保護者に対して子供の進学段階を尋ねる設問は、「現実的に見て」という聞き方をしている。このような聞き方をしているのは、保護者として理想としては大学等に進学させたいという思いはあるが、経済的な負担等を踏まえると進学させることが難しいという状況があるのではないかとすることを想定し、保護者が現実的にどのように考えているのかを把握するためである。

(改善案)

問 お子さんは将来、現実的に見てどの学校に進学すると思いますか。

(あてはまるものひとつに○)

- 1 中学のみ（義務教育のみ）
- 2 中学、高校
- 3 中学、高校、専門学校
- 4 中学、5年制の高等専門学校
- 5 中学、高校、短大
- 6 中学、高校（または5年制の高等専門学校）、大学
- 7 中学、高校（または5年制の高等専門学校）、大学、大学院
- 8 その他
- 9 まだわからない

(3) 収入・所得

- 保護者票問 18 で世帯全体の年間収入(税込)を尋ねているが、注釈で示している内容について、「収入」と「所得」という用語が混在している。誤解を防ぐため、用語の混在を解消し、ここでは「収入」に用語を統一するという対応が考えられる。
- ただし、「事業収入」や「農林漁業収入」等は、原材料費や従業員に対する給与などの必要経費を差し引いた金額を想定して回答していただく必要があり、「事業収入」や「農林漁業収入」等に関しては、実質的にこの設問では「所得」を回答していただいていることになる。
- 他方で、例えば「子どもの貧困率」を算出する元となっている国民生活基礎調査では、「勤め先から受け取った給料、賃金、賞与(ボーナス)を合わせた税込み金額」と、一般的には「収入」にあたるものについて「雇用者所得」という用語が用いられている。このことから、アンケート調査の中で用語を統一的に用いつつ、かつ、「収入」と「所得」の違いを本来的な意味で厳密に使い分けることは難しいのではないかと考えられる。
- 調査実施の際には、「世帯全体の年間収入(税込)」のおおよその金額によりその世帯の経済的な水準を把握するための設問として、誤解のないような表現であるかについて留意が必要である⁷¹。
- なお、「資産収入」に関しては、アンケート調査票において「財産所得」に関する説明として「預貯金利子、家賃収入等」と説明を付していたが、例えば家や土地の売却代金(売却益)を含むか否か、相続による財産取得を含むか否か等⁷²がわかりづらいことから、これらの点に関して、より丁寧な説明を付すことも考えられる。

⁷¹ 例えば国民生活基礎調査では、「所得」から「可処分所得」を算出し、そこから「等価可処分所得」を計算して貧困率を求めている。このほか、公的な社会保障給付の支給等に関しては、「課税所得」の水準により支給の可否・有無が決まることが多い。これらのように、収入・所得に関してはいくつかの考え方・基準があることから、用語等誤解のある形で使用してしまっていないか等について留意が必要と考えられる。

⁷² 国民生活基礎調査では財産所得は「世帯員の所有する財産から生じた家賃・地代の所得、利子・配当金など」とされており、「家や土地の売却代金、引き出した預貯金、生命保険・損害保険からの受取金」は除くと説明されている。また、一般的には相続による財産取得は含まないものと考えられる。

(改善案)

問 世帯全体のおおよその年間収入(税込)はいくらですか。(あてはまるもの1つに○)

※〇〇年の年間収入についてお答えください。

※収入には、同居し、生計を同一にしている家族全員の以下の収入が含まれます。

- ・勤め先収入（定期収入、賞与等）
- ・事業収入（原材料費、人件費、営業上の諸経費等を除く）、内職収入（材料費等を除く）
- ・公的年金・恩給、その他の社会保障給付金（生活保護、児童手当、児童扶養手当等）
- ・農林漁業収入（農機具等の材料費、営業上の諸経費等を除く）
- ・資産収入（預貯金利子、家賃収入等。家・土地の売却代金や生命保険・損害保険からの受取金は除く。）
- ・その他の収入（仕送り、養育費、個人年金、各種祝い金等）

- | | |
|-----------|--------------|
| 1 | 50万円未満 |
| 2 | 50~100万円未満 |
| 3 | 100~150万円未満 |
| 4 | 150~200万円未満 |
| 5 | 200~250万円未満 |
| 6 | 250~300万円未満 |
| 7 | 300~350万円未満 |
| 8 | 350~400万円未満 |
| 9 | 400~450万円未満 |
| 10 | 450~500万円未満 |
| 11 | 500~600万円未満 |
| 12 | 600~700万円未満 |
| 13 | 700~800万円未満 |
| 14 | 800~900万円未満 |
| 15 | 900~1000万円未満 |
| 16 | 1000万円以上 |

(4) 公共料金の未払い

- 保護者票問 21 で公共料金の未払いの有無について尋ねているが、複数回答形式の設問において、無回答と明確に判別するため、「該当するものはない」の選択肢を設ける。

(改善案)

問 あなたの世帯では、過去 1 年の間に、以下の料金について、経済的な理由で未払いになったことがありましたか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 電気料金
- 2 ガス料金
- 3 水道料金
- 4 該当するものはない

(5) 年齢

- 年齢による収入の水準の違い等を把握・確認できるようにするため、世帯の状況等を把握するための項目として、家族構成に関して、母親・父親のそれぞれの年齢を把握する。

(改善案 (新規設定))

問 お子さんの親の現在の年齢についてお答えください。母親・父親にかわる保護者の方がいる場合には、その方のことについてお答えください。

(母親・父親それぞれについて数字で回答、いない場合やわからない場合は空欄)

母親 歳 父親 歳 母親・父親にかわる保護者 歳

(6) 生活満足度

- ウェルビーイングについて保護者の状況を把握することも重要であると考えられることから、中学生票に盛り込まれている「生活満足度」を尋ねる項目について、保護者票にも盛り込む。

(改善案 (新規設定))

問 全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。「0」(まったく満足していない) から「10」(十分に満足している) の数字で答えてください。

(あてはまるもの 1 つに○)

0 : まったく満足していない						10 : 十分に満足している				
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

3.3.中学生票の修正

(1) 学歴

- 中学生票問7で尋ねている「どの段階まで進学したいか」について、保護者票と同様の選択肢から選択してもらう設問に変更する。

(改善案)

問 あなたは、将来、どの学校に進学したいですか。(あてはまるものひとつに○)

- 1 中学のみ(義務教育のみ)
- 2 中学、高校
- 3 中学、高校、専門学校
- 4 中学、5年制の高等専門学校
- 5 中学、高校、短大
- 6 中学、高校(または5年制の高等専門学校)、大学
- 7 中学、高校(または5年制の高等専門学校)、大学、大学院
- 8 その他
- 9 まだわからない

(2) 逆境体験

- 中学生票問 17 で尋ねている「逆境体験」の該当個数について、ひとり親世帯では「e 両親が、別居または離婚をしたことが一度でもある」の項目に該当することが多いと考えられ、「1～2個あてはまる」などの幅をもった選択肢だと判別が難しいことから、明確に該当個数がわかる形での選択肢で把握する⁷³。

(改善案)

問 あなたは今までに、以下の a～h のようなことがありましたか。あてはまる個数を教えてください。

(あてはまるもの 1 つに○)

- a 一緒に住んでいる大人から、あなたの悪口を言い立てられる、けなされる、恥をかかされる、または、身体を傷つけられる危険を感じるようなふるまいをされることがよくある
- b 一緒に住んでいる大人から、押される、つかまれる、たたかれる、物を投げつけられるといったことがよくある。または、けがをするほど強くなぐられたことが一度でもある
- c 家族のだれからも愛されていない、大切にされていない、支えてもらえていないと感じることがある
- d 必要な食事や衣服を与えられなかったり、自分を守ってくれる人はだれもいないと感じることがある
- e 両親が、別居または離婚をしたことが一度でもある
- f 一緒に住んでいる家族が、だれかに押されたり、つかまれたり、けられたりしたことがよくある、または、くり返しなぐられたり、刃物などでおどされたことが一度でもある
- g 一緒に住んでいる人に、お酒を飲んだり麻薬などで自身の生活や人間関係を損なうようなふるまいをした人がいる
- h 一緒に住んでいる人に、うつ病やその他の心の病気の人、または自殺しようとした人がいる

- 0 ひとつもあてはまらない (0個)
- 1 1個あてはまる
- 2 2個あてはまる
- 3 3個あてはまる
- 4 4個あてはまる
- 5 5個あてはまる
- 6 6個あてはまる
- 7 7個あてはまる
- 8 すべてあてはまる (8個)

⁷³ 選択肢の番号は通常「1」から付番されるが、「ひとつもあてはまらない(0個)」の回答に対応する選択肢の番号を「0」とし、それ以降、該当個数に対応する選択肢番号を設定することが考えられる。

(3) 支援制度・居場所等

- 中学生票問 18 で尋ねている、利用したことがある支援制度・居場所等について、「a) (自分や友人の家以外で)平日の夜や休日を過ごすことができる場所」の項目は、居場所の提供を実施する事業の利用状況や意向を尋ねる趣旨であったため、小学生票であれば「学童保育所など」と併記しているところだが、対応する中学生向けの全国制度等がないことから、中学生票においてはこの記載を削除していた。しかし、本調査においては、例えば娯楽施設や習い事・学習塾等の場を想起した者もいたものと考えられることから、このような誤解を防ぐため、具体的なイメージの共有が必要であり、①各自治体の居場所の提供を実施する事業名や地域における居場所の名称を示した形で項目を設けるか、②項目自体を削除してほかの3項目で状況把握を行うようにするか、調査を実施する自治体ごとにいずれかの方法を選択する。

(改善案①)

問 あなたは、次の a～d のような場所を利用したことがありますか。また、利用したことはない場合、今後利用したいと思いますか。(a～d それぞれについて、あてはまるもの1つに○)

	利用したことがある	利用したことはない		
		あれば利用したいと思う	今後もし利用したいと思わない	今後利用したいかどうか分からない
a) (自分や友人の家以外で) ^{へいじつ} ^{きゅうじつ} 平日の夜や休日を過ごすことができる場所 (●● (具体的な自治体施策名や居場所の名称) など)	1	2	3	4
b) (自分や友人の家以外で) ^{むりよう} 夕ごはんを無料か安く食べることができる場所 (子供食堂 ^{しよくどう} など)	1	2	3	4
c) ^{べんきよう} ^{むりよう} 勉強を無料でみてくれる場所	1	2	3	4
d) (家や学校以外で)何でも ^{そうだん} 相談できる場所 (電話やネットの ^{そうだん} ^{ふく} 相談を含む。)	1	2	3	4

(改善案②)

問 あなたは、次の a～c のような場所を利用したことがありますか。また、利用したことはない場合、今後利用したいと思いますか。(a～c それぞれについて、あてはまるもの 1 つに○)

	利用したことがある	利用したことはない		
		あれば利用したいと思う	今後もし利用したいと思わない	今後利用したいかどうか分からない
a) (自分や友人の家以外で) 夕ごはん ^{むりょう} を無料か安く食べることができる場所 (子供食堂 ^{しよくどう} など)	1	2	3	4
b) 勉強 ^{べんきょう} を無料 ^{むりょう} でみてくれる場所	1	2	3	4
c) (家や学校以外で)何でも相談 ^{そうだん} できる場所 (電話 ^{でんわ} やネットの相談 ^{そうだん} を含む。)	1	2	3	4

